

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600142		
法人名	社会福祉法人 新生会		
事業所名	リハビリセンター白鳥		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町白鳥386番地		
自己評価作成日	令和5年1月5日	評価結果市町村受理日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192600142-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192600142-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

憩いの場所には大きな窓が設置されており、外の景色を眺めることができ季節を感じながら仲間と共にお話が弾む場所となっています。施設内自由に移動することができ、併設しているデイサービスの利用者さんともお話しすることができます。カフェにも足を運ばれ手作りパンやクッキーなど自由に購入することができ社会的交流を保つこともできています。サンビレッジの学生さんとの交流もあり、一緒にレクリエーションを行ったり、おやつ作りを行ったりしながら刺激ある日々を過ごすこともできます。気分転換や社会との交流の為、ドライブなどに出かけ楽しみのある生活ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型サービスの意義を踏まえて、利用者が子どもや学生、地域住民らと世代を超えて交流できる場所となれるよう取り組んでいる。住民も利用できるコミュニティカフェが併設されており、デイサービスや施設の利用者とも交流することができる。生活リハビリの一環として、利用者がカフェでの手伝いを行うなど、役割を持って能力を発揮できるよう支援している。法人には国際医療福祉専門学校があり、国家資格取得を目指す学生のために、利用者が必勝千羽鶴を折って贈るなど、社会とつながった暮らしの支援を実践している。事業所は、常に介護の質の向上を目指し、職員が働き易い職場環境作りにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて白鳥十か条を共有し、自身の言葉で理解し自立支援と生活リハビリを基本とし情報共有を行いながら業務に入れるよう努めている。	毎日、法人理念・ホーム理念、白鳥十か条を朝礼時に確認し、共有している。理念と共に、日めくりカレンダー「しんせい語録」も目に付きやすい場所に掲示し、初心を忘れることなく理念に沿った支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	白鳥区の回覧板を施設内に掲示し、利用者と一緒に地域の動きを把握している。近隣の保育園児がサツマイモ掘りにきてくれ感染予防を行いながら交流を行う。	現在、以前のような交流はできないが、事業所内に地域の情報を掲示している。また、感染予防対策を行いながら、住民も利用できるコミュニティカフェで駄菓子屋を開き、利用者も出来る事を手伝うなど、地域とつながる支援として取り組んでいる。	現在、コミュニティカフェを活用しながら、利用者が更に地域と繋がれるよう、計画中である。今後も、コロナ禍でも出来ることを継続し、新たな取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉教育の一環で高校生の見学や職場体験の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催される運営会議にて現在の入居状況や活動内容を報告し助言やご意見を頂きサービス向上に務めている。	運営推進会議は併設施設と合同で定期的開催し、利用者の状態や行事、今後の予定等を報告し、意見交換を行っている。地域の感染拡大状況を見ながら、対面または書面にて実施している。議事内容によっては、事前に意見を求めながらサービスの向上に活かし、開催後には議事録を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において日頃の活動やリスク報告を行っている。地域の方にカフェやリハビリルームを開放し、町民に活用してもらえよう様施設を開放している。	行政と常に連携しながら、事業所の活動や地域の高齢者の状況等の意見交換を行っている。地域住民に、リハビリルームの開放やコミュニティカフェについて、広報で周知できるよう、行政と共に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ヒヤリハットの振り返りを毎月の会議で共有し、身体拘束と言われる行為が行なわれていないか確認実施し、見守り方法やケア方法などの検討実施を行っている。	併設の施設や他サービス事業所と合同で、リスクマネジメント・虐待防止・身体拘束防止委員会を開催している。ヒヤリハットや事故報告について、原因の確認、改善に向けての検討を行っている。職員会議でも振り返りを行い、身体拘束にあたる行為や虐待について正しく理解するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者主体のケアが実践できているか職員間で共有し、会議等の勉強会で理解を深めると共に、ケアの振り返りを行い、スタッフが基本に立ち返る事が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用し、必要に応じて情報共有を行い、入居者様の生活のサポートをお願いし安心して生活をして頂けるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には本人・ご家族と一緒に契約書の中身を理解して頂き、納得して頂けるまで説明を行っている。当法人の理念や施設利用時におけるリスク等も説明実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍であり面会制限がある為、ご家族さんが安心して頂けるよう写真付お手紙を作成し近況を報告を行いました。ご意見箱の設置・外部評価委員による「よろず相談」の機会を設け家族の意向がきける仕組みづくりを行っている。	現在、面会時間等に制限はあるが、感染予防対策をした上で、対面での面会を可能にしている。また、定期発行する白鳥ニュースや利用者の写真付きの手紙等で近況報告も行っている。日頃から、家族が気軽に要望や意見が言えるよう信頼関係作りに努め、意見や要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一人一人責任が持てる行動ができる様、他部署間での連携会議を行ったり、各委員会活動を設け、管理者と一緒に施設運営ができる取り組みを実施している。	職員一人ひとりが、責任を持って支援を行う為に、利用者の担当制を用いている。利用者のケアが困難であった場合、一人で抱え込むことのないよう職員間で話し合い、管理者と共により良い利用者支援につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シート、チャレンジシート等を活用し人事考課を取り入れている。各スタッフとの面談を通じて目標の確認を行っている。随時悩み事や不安業務がないかの聞き取りも実施。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	統一ケアを行いながら、個々のスキルの把握を行いながら法人内の研修などを活用し、個々のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交換研修会を行い自己研鑽を図っている。また、年に1度事例発表会を実施し法人内だけではなく全国の施設から招待事例を招き情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を実施し生活状況・課題の把握に努め、利用者によってはデイサービスやショートステイ等の利用を進め環境や職員に慣れてもらい安心して住み替えて頂けるような提案も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のオリエンテーションを実施するようになり、契約時には今までの生活の様子や今後の希望などを聞き取るようにし、入所後の家族と本人、施設との関係性が良好となる様丁寧な説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から日常生活での困りごとや、現在不安に感じている事などの聞き取りを行い、入所にとらわれず、現在必要と思われるサービスの提案を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を把握し、興味のある事や、やりたい事をサポートできるように心がけている。グループホームという空間を活用し、風船バレーや壁画作りなども行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子をお伝えし、家族との交流を行うことにより家族の思いを職員が理解できるようになり本人を支えるために施設の役割、家族の役割が明確に出来ている。本人の思いを必要に応じて代弁し家族の役割としてになって頂いている事も多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔馴染みの方がデイサービスのご利用で来苑されたり、昔一緒に仕事をしていた友人が面会に来られたりと馴染みの関係が維持できている。施設として地域住民を広く受け入れ、地域とのつながりがもてる施設づくりに努めている。	感染対策を整えた上で、デイサービスやリハビリルーム利用者との交流を支援し、馴染みの関係を維持している。コミュニティカフェでは、短時間のイベントを実施したり、季節に応じて、馴染みの場所や自宅付近へのドライブも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席や活動時の座席にも配慮を行い、孤立する事無く毎日快適に過ごして頂けるよう配慮を行いながら、利用者同士関わりが持ちやすい様環境作りにも心かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他界された後にご家族さんとグリーフケアを行い、作品や写真などで個人の振り返りを行っている。毎年行われる物故者慰霊祭で家族を招待し個人を共に偲んでいる。他界された利用者のご家族がボランティアとして施設との関係が継続している事もある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中から、本人の思いや生活歴・趣味・嗜好の把握を行い、本人からの発信が困難な場合においてもその人らしい生活を想像しながらケアを実施している。	職員は、利用者一人ひとりの思いや意向を把握できるよう、様々な研修や学習を重ね、学んでいる。日常生活での介助や利用者との会話の中から、思いを推測し、どの職員であっても、同じケアが出来るよう情報を共有し、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人さんやご家族、ケアマネジャーから自宅の様子や生活環境、どんなこだわりがあったのか、どんな趣味があったのかなど生活スタイルの把握に努めている。環境が変わっても自宅での生活との落差がないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを大切に、日々の精神面、身体面の変化に気付けるよう状況把握に努めている。利用者の「できる力」を職員間で共有し自立支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く快適に生活して頂けるよう、本人・家族の意見を確認しプランの作成に心掛けている。カンファレンス開催時も多職種での参加を行い、会議の場ではケアの確認や報告を行っている。	3か月毎に家族も参加して、ケアプラン作成を行っている。担当職員が、日頃の利用者の様子を報告し、アセスメントを行い、ケアマネジャーと確認している。カンファレンスで、医師から医療的状況も聞きながら、関係者で意見交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はパソコン入力と言語での申し送りで職員間で共有し統一ケアが提供できるように心がけている。個人だけの情報にならない様な些細な事でも記録に残すよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族からの要望に出来る限り添える様、色々なオプションサービスを提示しながら要望に応えられるように努めている。安全に考慮し施設内散歩にも自由に出かけられる環境作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所されてからもオシャレをして頂けるよう理美容に関して地域の美容院のご協力を頂き髪をカット、毛染め等もやっている。食材の注文を一緒に行ったり、地域のスーパーへ利用者と一緒に行き物に行く事も状況で取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医を変更することなく昔からの主治医の継続も可能である事を伝えている。往診時には日頃の様子を医師に伝え、受診後の内容は職員間で話し合い、今後のケアに繋げている。訴えが出来る利用者は直接主治医との面談も行っている。	契約時に、かかりつけ医について説明し、本人・家族が選択している。協力医は月1回の往診がある。看護師が職員として配置されており、利用者の健康管理に努めている。かかりつけ医への受診や往診後の情報は職員間で共有し、適切な医療支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化にいち早く気づき、情報提供が行えるよう努め、日常的に看護師との病状把握、状態把握を行っている。また、当施設のOTとも連携し運動のアドバイスや最適なケアを様々な視点から実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーにて情報提供を行い、入院中も定期的に状態確認の連絡を行い情報共有を行っている。退院時もカンファレンスを実施し施設での生活を安心して過ごして頂けるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から終末期について本人・家族と話し合う様に努めている。状態変化がある時は家族と話し合いを行いながら、本人・家族さんが望まれる方向性で支援に当たれるよう努めている。	契約時に、重度化や終末期の対応指針について説明し、本人・家族の意向を確認している。利用者の状態が変化した時は、早い段階から関係者で話し合っている。看取りを希望する家族の場合は、思いに寄り添い、支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、緊急時の対応についての勉強会を開催しいざと言う時に慌てることなく対応できる様に取り組んでいる。緊急マニュアルも作成し随時確認できるよう体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施している。利用者さんも交えながら防災訓練を実施し緊急時に備えている。毎年職員は消火器、防火戸、散水栓の位置を確認しながら対策をしている。運営推進委員会等を通じて地域の防災訓練にも参加している。	防災訓練は、年2回夜間想定も含めて実施している。地震や水害対策についても話し合っている。また、近年は、防犯対策についても、講習を受けながら職員の取るべき行動を確認している。地域の防災訓練にも参加し、職員の防災意識を高めながら、地域との協力体制作りにも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーへの配慮に常に心掛け、新生語録や白鳥十か条などで常に心がける様に朝礼などで情報共有しながら初心を忘れない様職員間でも共有している。	新生語録や白鳥十か条には、対人援助の基本となる言葉が分かり易く明示されており、職員のバイブルとなっている。職員は、利用者との長い関わりがあっても、常に節度ある言葉遣いや態度を心がけ、誇りやプライバシーに配慮した支援を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけにならないような言葉かけに気を付けながら選択肢のできる声掛けに心掛けている。食事の選択もできるように取り組みを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の関わりにならないよう、一人一人のやりたい事や自信のペースを尊重しその人らしい生活が出来る様に心かけて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が衣類を選択するのではなく、利用者さんが選んでいただけるような声掛けや対応を行う様に心掛け、オシャレに関心が持てるような仕掛け作りに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配サービスも活用し皆さんと一緒にカタログを見ながら好みの物を注文し食欲増進をはかっています。食器拭きや下膳もできる限り自身で行われるよう介入実施	宅配サービスを活用し、利用者の食べたい物を選んだり、畑で収穫した野菜も利用するなど、日々の食事を美味しく食べられるよう工夫している。また、法人内の厨房で作った食事を取り入れたり、汁物はホームで調理し提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量がなかなか摂取できない時はこまめに提供を行ったり、ゼリーなどで提供を行い水分摂取に心掛けている。また必要に応じて嗜好品を家族より持ち込んで頂き提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後や起床時など口腔ケアに心掛け自身で行えるような環境づくりや声掛けにて促しを実施している。自身で行う事のできない方には舌下ブラシなどを使用し口腔ケアの取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時には排泄のアセスメントを行い介入方法の共有を行っている。最後までトイレでの排泄が行っていただけよう下肢筋力維持や排泄動作を繰り返し行っていたり自立支援に努めている。	利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレまでの移動が自分で出来るよう、歩行リハビリなども支援している。夜間のみ、安全面に配慮してポータブルトイレを使用する人もある。排泄用品は利用者の状態に適切であるかを確認しながら選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳を提供したり、日々体を動かすレクリエーションを取り入れながら自然排便を促している。福祉機器のかつようも行いながらトイレでの排泄に心掛け便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行いながら季節に合わせた浴槽風呂の提供を行いながら楽しみながら入浴して頂けるようにしている。体調不良時は入浴日の変更も行いながら柔軟に対応している。	入浴は週2回を基本とし、利用者の希望で柔軟に対応している。また、体調に合わせて入浴日を変更したり、シャワー浴や清拭での対応もしている。現在は、デイサービスの大浴場でデイ利用者と一緒に楽しく安心して入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活スタイルに合わせて過ごして頂き、職員都合のケアにならないよう注意している。夜間眠れない方にもゆっくりお話を聞く時間なども設けながら安心して頂けるような環境作りを努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報等で個々の服薬内容や用途を確認しながら複数の職員で確認する事で飲み忘れなどのリスク回避を行なっている。リスクの共有も都度行ない繰り返し起こらない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とする事を日比の生活から読み取り、無理のない湯役割分担が行なえている。感謝の言葉も忘れず行い生活リハビリに繋がるような仕掛けができる様心かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではありましたが、季節に応じてお花見・紅葉ドライブを計画し出かけている。天気の良い日は施設内を散歩したり、施設の畑の野菜の収穫をおこなったりしている。	以前のような外出支援は難しいが、天気の良い日には、畑の野菜の生育ぶりを見たり、周辺を散歩している。雨の日には、リハビリを兼ねて、ホームや法人施設内を歩いている。コロナ禍ではあるが、ドライブで季節の花や紅葉を楽しむなど、出来ることで気分転換を図っている。	



岐阜県 リハビリセンター白鳥

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が行なえる利用者さんには家族同意の元管理して頂き、施設内のカフェで自由にパンやクッキー・コーヒーが召し上がっていただける様になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している利用者がおり自由に家族と連絡を取っている。家族に伝えたい事を面会時に伝えられるように職員同士でメモをとったり、家族に絵手紙を書いて送った事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の畑で栽培しているお花を生けたり、利用者さんと一緒に作成した季節の壁画を飾ったりし、居心地の良い環境作りに努めている。食事中などはゆったりとした音楽をかけながら召し上がっていただいている。	法人施設内には、カフェやリハビリルームがあり、利用者は、デイサービス利用者と交流しながら、筋力低下予防の為の運動も出来るようになっている。共有空間の窓も大きく、明るい陽射しが入り暖かい。要所に観葉植物が置かれ、季節の花や利用者の作品を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分転換を行って頂けるようソファーやテーブルを設置しており一人でゆっくり過ごして頂けるスペース作りを行っており、施設全体で自由に過ごしていただけるよう、コロナ対策を行いながら居場所の選択幅を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団などを持参していただき、自宅同様に自身の住み慣れた環境に近い状況で過ごしていただけるよう環境に配慮している。	表札は希望者のみ掲げている。使い慣れた家具を持ち込み、家族の写真、思い出の品を飾り、利用者が主体となって、これまでの暮らしに近い環境作りをしている。居室の掃除は、利用者と職員が一緒に行うようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けた声掛けや環境づくりに心掛け、車椅子も自走して頂き行動範囲が広がるようなテーブル配置を行っていただける事を活かしていただけるよう努めている。		